

# On the holotype specimen of *Mertensia pterocarpa* (Turcz. )

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/48105">http://hdl.handle.net/2297/48105</a>

福田知子<sup>1</sup>・高橋英樹<sup>2</sup>：エゾリソウ（ムラサキ科）のホロタイプ標本Tomoko Fukuda<sup>1</sup> and Hideki Takahashi<sup>2</sup>: On the holotype specimen of *Mertensia pterocarpa* (Turcz.) Tatewaki et Ohwi var. *yezoensis* Tatewaki et Ohwi (Boraginaceae)

エゾリソウ *Mertensia pterocarpa* (Turcz.) Tatewaki et Ohwi var. *yezoensis* Tatewaki et Ohwi はチシマルリソウ *Mertensia pterocarpa* (Turcz.) Tatewaki et Ohwi var. *pterocarpa* の変種として、1933年に発表された (Ohwi 1933)。現在、広義のチシマルリソウの種内形態変異について解析中だが、識別形質とされるがく裂片の形や毛の密度の変異が産地間あるいは時に産地内でも大きい。そこで両変種を区別できるかどうかを判断するにあたって、変種エゾリソウのタイプ標本を明らかにしておく必要が生じた。

エゾリソウの初発表文には、3個の標本が引用されているがいずれにも保存標本庫が明記されていない。この内の1個「mt. Ashibetsu (H. Koidzumi in 1915)」がタイプとして指定されている。奥山 (1983) は、エゾリソウのタイプ標本は京大 (KYO) に保存されているとするが、一方、北大 (SAPS) にも1915年芦別岳で小泉秀雄氏により採られた標本があり、タイプの印が押されている。そこで大井が所属していた京大か、館脇が所属していた北大か、どちらの所蔵標本がホロタイプなのかが問題となった。

京大標本のラベルには、「*Mertensia yezoensis* sp. n., Yezo 芦別岳, ca. 1915, H. Koidzumi」とある。採集年月日がなく、採集年の1915の前にca. が付記されている。「*Mertensia yezoensis* sp. n.」は大井の自筆であるが、産地、年号、採集者名については誰の筆跡か分からない。「*Mertensia yezoensis*」は正式には発表されておらず、Ohwi (1933) はエゾリソウの初発表文でシノニムとして引用 (*Mertensia yezoensis* Tatewaki et Ohwi mass.) している。一方、北大標本のラベルは「石狩国芦別岳, July 28-31, 1915, 小泉秀雄」とあり採集年についてはより詳しく、「*Mertensia rivularis* DC. var. *japonica* Tak.」(宮部金吾の自筆と思われる) がラベル中央に書かれ、ラベル上部に後で書き加えられたと見られる「*Mertensia pterocarpa* var. *yezoensis* Tatewaki et Ohwi」(館脇の自筆と思われる) がある。さらに、上記したようにタイプの印が台紙に押されている。この印は新しいものには見えず、館脇時代に押されたものと思う。*Mertensia rivularis* var. *japonica* も Ohwi (1933) ではシノニムとして引用されている。

Ohwi (1933) の初発表文では、根出葉・種子についての記載があるが、北大の標本には根出葉・成熟した種子がない。それに対し、京大標本にはその両方が含まれている (種子は袋に入れて貼りつけてある)。Ohwi (1933) は茎生葉について、「長さ3-5 cm, 幅2-3 cm」と記載しているが、北大標本の葉は長さ3-3.5 cm, 幅1-2 cmでありより小さいが、京大標本はこの変異幅に入る。

以上のように記載文は京大標本の特徴に一致し、さらに新変種発表を主導したと考えられる大井 (Ohwi 1933) の中で発表されているが当時京大に所属していたこと、*Mertensia yezoensis* pro syn. は正式に発表されなかった無効名だが、エゾリソウの学名はこの種小名 *yezoensis* を変種ランクに新組合せをおこなった形をとっていること、などを考慮すれば、*M. pterocarpa* var. *yezoensis* のホロタイプは京大標本とするのが妥当だろう。

京大標本のラベルにおいては採集年月日が厳密に記述されていないが、手書きでラベルを書いていた当時の状況を考えれば、重複標本にあらかじめ同じラベルを作らずに送付したり、その都度データの厳密さが異なるラベルを作ったり、ラベルなしで送付し受領先で適宜ラベルを作る事、などは普通にあったと考えられる。

北大標本は上述したような諸点で京大標本とは違っているが、採集した季節が明らかに違っている訳でもなく、この程度の形態的な違いは同一集団内でありそうなことである。そこで北大標本はアイソタイプ (国際植物命名規約9.3条; Greuter et al. 2000) と考えられる。さらに重複標本は科博 (TNS), 東大 (TI) にもあることを確認したが、標本には何らのタイプ指定の指示もなく、やはり大井の当時の所属先が京大であったことを考慮すれば、これらもアイソタイプと考えるのが妥当である。

以上より、エゾリソウのホロタイプは京大標本であり、アイソタイプは北大, 科博, 東大にある。また、初発表時に同時に引用された他の2標本, mt. Ashibetsu (S. Nishida et H. Yanagisawa in 1913) と mt. Yubari (H. Takeda et Tatewaki in 1921) はパラタイプ (同規約9.5条; Greuter et al. 2000) であり、これらは北大にある。

京大の永益英敏氏, 科博の近田文弘, 秋山 忍氏には、標本貸与でお世話になった。また、東北大学名誉教授大橋広好氏には初期の原稿を見て頂き、タイプ選定に関する有益なご意見を頂いた。記して感謝する。

## 引用文献

- Greuter, W., McNeill, J., Barrie, F. R., Burdet, H. M., Demoulin, V., Filgueiras, T. S., Nicolson, D. H., Silva, P. C., Skog, J. E., Trehane, P. and Turland, N. J. 2000. International code of botanical nomenclature (Saint Louis Code). 474 pp. Koeltz Scientific Books, Königstein.
- Ohwi, J. 1933. Symbolae ad Floram Asiae Orientalis, 8. Acta Phytotax. Geobot. **2**: 102-108.
- 奥山春季. 1983. えぞるりそう. 新訂増補 原色日本野外植物図譜 2, p.394, pl. 447. 誠文堂新光社, 東京.
- (<sup>1</sup>〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 8 丁目 北海道大学農学研究科; <sup>2</sup>〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目 北海道大学総合博物館 <sup>1</sup>Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, N-8 W-8, Kita-ku, Sapporo 060-0808, Japan; <sup>2</sup>The Hokkaido University Museum, N-10 W-8, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan)